

付着動物を含め貝殻の大部分を滑層で乳白色に白濁するほど厚く覆った ヤクシマダカラ (軟体動物門, 腹足綱)

太田 満*・久保田 信*

Mitsuru OHTA and Shin KUBOTA: A specimen of *Cypraea (Mauritia) arabica asiatica* (Mollusca, Gastropoda) with most of the shell surface, including attached organisms, thickly covered by a milky-white secreted periostracum

フジツボ類が3個体とカキ類が1個体、背面に付着した和歌山県白浜町産のヤクシマダカラ *Cypraea (Mauritia) arabica asiatica* (SCHILDER & SCHILDER, 1939) 1個体が、京都大学瀬戸臨海実験所水族館の水槽中で2年あまり生存した。この水槽は、総水量36.9 m³で、重力式砂濾過方式(濾過槽面積9.9 m², 貯水槽容量22.5 m³)の外部循環システムとエアレーションを兼ねた内部循環システムを併用している。水温は年間を通して21-27°Cであった。この水槽中には、イボヤギやイソバナなど17種95群体・個体が収容されている。また、水槽壁面には小形のイソギンチャク類が無性生殖によって多数の個体になることもあった。

本ヤクシマダカラが生存期間中(1998年10月13日に実験所前で採集して以降、2000年12月5日に斃死するまで)、上記の2種4個体の付着生物をすっかり覆い尽くした上に、滑層で自身の貝殻の大部分を野外では見られないほど厚く、しかも、蠟のように乳白色に白濁するほど分泌した異例な個体(図1-3)となったので報告す

る。別個体のヤクシマダカラも同時にこの水槽に収容したが、こちらについては特記事項はない。

本個体は殻長58 mmの成貝。通常灰褐色の腹面の貝殻は、分泌された滑層で厚く覆われ乳白色に白濁し、特徴ある斑紋はまったく見えなくなっている。かろうじて、多数並んだ歯はわかる。白濁するほどの覆いは、貝殻側面と付着生物の着生した前半分の背面まで達して見られた。背側面後半のみ本来の縦縞模様が残っていた。

本個体は、水族館に収容されたため天敵もなく、餌もある程度は豊富にあると思われる比較的大きな水槽内で、ほどよく安定した環境の中、その付着生物とともに採集以降に順調に生存したものと推察される。本個体では、滑層形成が極めて活発になると同時に、覆いかぶせに対抗する付着生物の勢いもあって、野外では決して見られないほど、蠟のように乳白色に白濁した滑層を形成するまで、貝殻の腹面、側面全体と付着生物を完璧に覆った背面前半部におこったものと推察される。両者が生きていて拮抗状態にある場合は沢見・久保田(2001)の



図1-3 蠟を塗ったように厚く滑層を分泌して背面前半部に付着した生物を覆った和歌山県白浜町産のヤクシマダカラ(京都大学瀬戸臨海実験所水族館で約2年間飼育)。1: 腹面。2: 側面。3: 背面。

Fig. 1. *Cypraea (Mauritia) arabica asiatica* from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan, with most of the shell surface (including the animals attached to the dorsal anterior half of the shell) covered by a thick, wax-like, secreted periostracum. The specimen was reared for more than two years in the Aquarium of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University. 1: ventral view. 2: side view. 3: dorsal view.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町)
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro,
Wakayama 649-2211, Japan

ような状況になっていたと思われる。なお、この水槽で上記に挙げた飼育展示の動物には、日に2回混合ミンチを飼育水に溶かして与えた。

本文をまとめるにあたり、タカラガイ類に詳しい渋見慶宏氏より貴重なご意見などを頂いたので深謝する。

引用文献

- 渋見慶宏・久保田 信．2001：フジツボ類が着生したメダカラ（軟体動物門，腹足綱，タカラガイ科）．南紀生物，**43**(2)，173-174．